

Eureka VI

六年制通信 No. 33 平成 31 年 2 月 15 日 (金) 号

藤井聡太七段

私は将棋の羽生さんと藤井聡太七段を勝手に応援しています。好きなんだからどうしようもないわけです。羽生さんの活躍は将棋を知らない人たちにも届いているでしょうが、藤井七段も盛んにマスコミに取り上げられていることもあって、羽生さんに負けず劣らず有名になりましたね。四段から七段まで最速の昇進、かつ現時点で通算 109 勝 19 敗、勝率 8 割 5 分。すごっ。藤井七段が対局中に食べるお昼なども放映されそれと同じものを食べる人も増えているとか。う～ん。

一時期、彼が幼児期に遊んでいたおもちゃが売り切れて、しかも入荷の見込みが立たないとの報道がありました。つまり、彼のような天才を育てたいと考えた親御さん乃至はじいちゃんばあちゃんが注文したわけでしょうね。でも彼のような天才が、これをしたら生まれるといった、そんな単純なことで生まれるわけがない、そんなことはわかっているでしょうに。ただ、ご両親がそんなことしていないで勉強しなさいとか言わないで、好きなことを熱中してやっているのだから飽きるまでやらせようとする、これが天才のご両親にはある程度共通した考えらしいですね。藤井少年は飽きなかったわけです。

小学 6 年生で「詰将棋選手権」に優勝しているのですが、これは一流プロも参加する大会です。もちろんまだプロ棋士にはなっていません。それ以降現在まで連覇しています。昨年度は、満点が彼しかいなかったとのこと。こわっ。彼の師匠が難しい詰将棋を出題してストップウォッチを取りに別室へ行き、帰ってくると「解けました」と言われて唖然としたというエピソードもあります。師匠には解けなかった難問らしい。今でも暇があったら詰将棋を解いていると聞きました。好き、が突き抜けた状態なのでしょうね、きっと。

最近是对局がネットで放映されていて、私もつい観てしまうことがあるのですが、朝 10 時に正座をして一礼、昼食休憩夕食休憩ののち、夜 11 時頃に勝っても負けても正座の二人が礼をする。その後、その一局を振り返り、検討する (感想戦と言います)。高校 1 年生の若者の、その真摯な姿勢に感動しました。トイレなどで対局の途中に席を立つ時は「失礼します」、戻ってくれば「失礼しました」、そういう作法もきちんとしています。これからも応援しよう、そう思う光景です。

さて、藤井七段を見ていると、2 年ほど前に通信で紹介した柴野栗山の「進学三諭」を思い起こします。京都から江戸だったかと思いますが、歩いていくときに学問にとって大切なことを三つ考えます。

- ・志は遠大にして日々これ勤しむべし
- ・初めに謹みて正道より入るべし
- ・小成に安んぜず大成を期すべし

この三つを、藤井七段はプロになる前からすでに知っていたのではないかと、そんな気がするのです。言葉はともかく、少なくとも体得していると思えないのですね。ほんの子ども頃に将棋の名人になると決めてから、彼は一日たりとも研究を怠ったことはないはず。七段になって「安んじて」いるわけもない。「謹みて」は、我が新明解国語辞典によると「調子に乗って過ちを犯すことなく」という意味ですから、彼からは最も遠い性質だと思います。

若いうちに1日勉強しなくても実際はどうということはない。1週間や2週間サボったところでほとんど影響ないと言ってよいでしょう。しかし、これが積み重なって長い時間がたてば、つまりサボる日を繰り返してしまえば、もう決して元には戻りません。このことは年齢を重ねれば、体感としてはっきりわかってくるものです。ところが若いうちはこれがわからない。わからないのが普通なのに、藤井七段はこのことを、あの若さではっきりと自覚しているように思うのです。たゆまぬ努力をしている男の顔に、彼はすでになっているように思います。将棋に興味がなくとも、一度彼の対局に臨む姿を見てほしい。若い君たちの心は何かを感じるに違いないと思います。

今週のおすすめ

- ・ロゲルギスト 『物理の散歩道』 (岩波書店)

続、第三、第四、第五と合わせて全五巻です。ロゲルギストとはドイツ人かと思いきや、実は著者名ではなく七人の物理学者がつくる研究会のグループ名なのでした。月例の研究会で出た雑談から、面白そうなのを一人ずつ選んで雑誌に投稿したのですね。当初は、これを読んだ記者がやはりドイツ人だと思ったらしく「内容は面白いが訳文が下手」と書いたというエピソードが残っています。執筆された皆さん、ひっくり返ったでしょうね。この第四巻の巻末に「カネオクレタノム」という章があって、三上章が『象は鼻が長い』か何かで引用しているのを学生時代に知って、図書館で読んだ記憶があります。今、手元にある五巻をばらばら見てみると、一卷にだいたい15~20のエッセイが収録されています。いくつかを読みましたが、物理学者の視点というか、疑問を面白がって突き詰めていく姿勢というか、私には非常に新鮮で楽しかったな。数式、図、表などもたくさん出てきます。これらを理解するのに物理の知識がどれほど必要なのか、正確にはわかりませんが、私みたいに知識ゼロの人間にも（めんどくさそうなところは飛ばして読んでも）けっこう面白いから、皆さんなら大丈夫。

楽しそうなタイトルをいくつか紹介します。「洋服は二着交替に着た方がいいか」『物理の散歩道』、「人はなぜ疲れるか」『続物理の…』、「わずかなエネルギーの利用」『第三物理の…』、「SF映画鑑賞法」『第四物理の…』、「かや葺き屋根はなぜ漏らぬ」『第五物理の…』。いかがです？ 読んでみたくなりましたよ。

BGMはユーミンのいちご白書をもう一度 でした…。